

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900079	事業の開始年月日	平成21年3月1日
		指定年月日	平成21年3月1日
法人名	有限会社ばすてる		
事業所名	どんぐり庵さんだ		
所在地	(〒243-0211) 神奈川県厚木市三田2-1-38		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果 市町村受理日	令和5年10月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームで暮らすことになってもその人らしい生活を送ることが出来るように心がけている。新型コロナウイルス感染対策は緩和されているがまだ心配は残るため外出制限は継続している。本来なら食材の買い出しや個人の買い物、散歩、ドライブなど日常的に行っている。家事活動などは入居者中心で行い職員は補助する形をとっている。また入居者が健康に暮らせるようにかかりつけ医師や看護師に協力してもらい日々の健康チェックをしている。体調に変化があったときは即座に対応できるよう日々の情報交換や入居者の観察に力を入れている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和5年9月22日	評価機関 評価決定日	令和5年10月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇理念に沿った、利用者本位の生活を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員は、利用者ができる事や分かることを探し、できないことを補助し、利用者中心の生活、その人らしい生活が送れるように支援している。 ・料理、片付けができる利用者とは一緒に食事を作ったり、部屋の掃除を行っている。一日の過ごし方も希望を聞き、テレビを見たり、お手玉をしたり、囲碁をしたりと利用者本位の生活が送れるよう取り組んでいる。 <p>◇嗜好調査を行い利用者の好みを把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェック表を使ってごはんの硬さなどを聞き取り、残食量を記録し、一人ひとりの好みや苦手の把握に努め、食事を楽しめるよう支援している。 <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇レクリエーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに担当職員を決め、全職員からアイディアを募り、計画を立て行っている。5月の菖蒲湯では、脱衣所入口にのれんをかけ、ポスターを飾り、菖蒲を生け、利用者が入浴を楽しめるよう、職員も楽しんで取り組んでいる。 <p>◇ヒヤリハットを収集して事故を未然に防ぐ工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ヒヤリハット、事故集計用紙」を使って、職員は報告書を作成している。原因と対応策を職員で検討・記録し、事故を防いでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	どんぐり庵さんだ
ユニット名	ぐり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は玄関ホールに貼りだし直ぐに目につくようにしている。またトイレに掲示し日常的にみることができる。ケアに迷ったときは理念を確認するようにしている。	・事業所理念「あなたの～をしたいという自由な気持ちを守ります」を玄関ホールやトイレに掲示している。 ・職員は常に利用者の気持ちを意識して、やりたいことができるように、また食べたいものが食べられるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流は運営推進会議の活動報告や回覧板のみとなっていた。令和5年度から運営推進会議の再開と地域行事の参加を予定している。お神輿に参加した。	・コロナ禍前は地域の行事やお楽しみ会に参加したり、近隣のスーパーに出かけ、地域とのつながりがあった。 ・今年は地域行事に参加予定しているが、新型コロナやインフルエンザの流行で、神輿見学は車に乗車したまま参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の中で介護に関する勉強会を開催、その講師をどんぐり庵さんで引き受ける話があったが実現できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では書面の郵送のみで顔合わせはしていない。令和5年度から会議を再開している。	・今年度から運営推進会議を2か月に1度、自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員の参加で開催している。 ・活動状況を報告し、地域での情報を聞いている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	厚木市とは施設の調査があれば協力している。また事故発生時には報告の義務に沿って報告している。	・厚木市とは市の調査に協力し、事故報告を行っている。 ・包括支援センターには隔月運営推進会議の議事録を渡し、市役所には一年分をまとめて年度末に渡している。 ・生活福祉課の担当者が年に1度、生活保護受給利用者の面会に来ている。	

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3か月に一度身体拘束委員会を行っている。コロナ禍では職員代表のみとしていたが令和5年度はミーティングの時に行っている。	・身体拘束委員会を3か月ごとにミーティングで行っている。欠席の職員はレポートを提出している。 ・マニュアルを使った研修を年1回行っている。 ・職員はヒヤリハット報告書を作成し、職員間で対応策を検討、意識してケアに取り組んでいる。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、ヒヤリハットを挙げることで見過ごしたり、なれ合いにならないようケアに臨んでいる。	・虐待防止の研修をマニュアルに沿って年1回行っている。自己チェックリストを使い、職員の虐待に対する認識を確認している。 ・職員は「ヒヤリハット、事故集計用紙」にいつ、どこで、だれが等および対策を記録し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人を利用している入居者はおらず職員全員が制度について理解はしていない。また勉強会も行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居当日または事前に契約書、重要事項説明書など必要書類は読み上げながら内容を説明している。入居者本人が理解することが難しいので家族が納得されたうえで署名を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常のやり取りで意見を聞くことはあるが改めて機会を設けてはいない。	・利用者からは日頃のやり取りから、家族からは面会時や電話で、意見要望を聞いている。 ・意見要望は相談記録に記録し、職員で議論している。必要に応じて回答し、また運営に反映している。	

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、業務中の申し送りなどで意見や要望などを把握する時間を持つようにしている。改善を要する事柄については対応するよう努力している。	・管理者はミーティング時や業務申し送り時に職員から意見や要望を聞いている。職員との個人面談を年2回行っている。 ・職員の意見で、トイレのケアの方法を変えたり、シャワーチェアを便利なものに代えた。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表や日頃の勤務態度を踏まえ環境を整えるよう努めている。	・職員の自己評価と日頃の勤務態度から勤務状況を把握し、職場の環境・条件の整備に努めている。 ・職員の資格取得を支援し、研修費用を負担している。 ・健康診断を年1回、夜勤者は年2回行っている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに必要な研修があれば受講できるよう準備している。	・新人職員にはOJTで研修を行っている。 ・研修は年間計画を立て、ミーティング時に行い、人材育成に取り組んでいる。 ・外部研修は現在コロナ禍やインフルエンザの流行で見合わせている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の事業所と連携が図れるよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活や困っていることは本人に聞くようにしている。正確に返答できないケースが多いので家族にも確認をとっている。出来るだけ自宅に近い生活が出来るよう工夫をしている。		

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と入居者様の今までのご関係性を考慮しつつ安心して頂けるように日常生活を、ご様子お知らせシートに記載し報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まで出来ていたことを維持できるよう家事活動や雑務など入居者本人が行うよう働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できることは自分で行う」ことを基本に職員の仕事を手伝ってもらったり、得意な分野は教えてもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要な物品の準備は家族に依頼している。コロナ禍で面会は制限があったが介護に関することは施設に来てもらい介護に参加してもらおうよう再開していく。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主に家族との面会になるが友人からの電話で会話することもある。携帯電話の所持は自由だが現在は使用している人はない。家族とのやり取り専用で携帯電話を預かっている人はいない。	<ul style="list-style-type: none"> 入居時のアセスメント情報や家族からの聞き取りで、馴染みの人や場所を把握している。 コロナ禍とインフルエンザの流行で利用者との面会は、家族3人までの予約制とし、玄関で5分以内と制限している。 	

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の支援において積極的に関与し利用者同士の関係を把握する様に心掛けている。利用者が利用者を手伝うことは見守りの上安全を確認しながらお任せしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に家族と交流することはない。相談事など希望があれば対応する。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症という性質上、本人の要望を聞くことが難しいことが多い。嗜好や趣味などは日ごとの表情や態度で推測しケアしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時のアセスメント情報や家族に聞くことで意向を把握している。 ・日頃の会話や表情、態度から利用者の思いの把握に努めている。 ・気付いたことは個人記録に記入して職員間で情報を共有し、ケアに取り組んでいる。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族からなじみの生活について聞き取りをしている。入居後もサービス提供上必要で本人から聞き取らないときは家族に聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事面や動きなどできることを見逃さないよう、また職員で情報共有できるように努めている。テレビ鑑賞の反応から好みなどを知ることもある。		

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者は記録や職員からの聞き取りを参考に介護計画を立てている。本人からの意見はないが家族の意見があれば取り入れるようにしている。	・介護計画作成者が利用者の個別記録や職員の意見、家族の要望を取り入れケアプランを作成している。 ・モニタリングは毎月行い、ケアプランは半年ごとに見直している。急変があった場合は、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を記載している。計画作成者はそれを読み自分が関わっていないときの入居者を知る。介護計画の参考に使っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会の制限はあるが月に1回程度自宅に行きたい要望がある。徒歩で移動し面会前には抗原検査を受けることでコロナ感染予防の上外出の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で近所への買い物は行く事が出来ていない。自治会の行事は安全確保が出来る範囲でお神輿には参加している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は職員が付き添っている。治療内容のや入院の判断は医師と家族で相談してもらっている。受診と受診結果は家族に報告している。	・多くの利用者は協力医をかかりつけ医とし、月4回の訪問診療を受けている。入居前からのかかりつけ医を継続する利用者もいる。 ・看護師が週1～2回訪問し、電話と訪問で24時間対応している。歯科医が週1回訪問し、希望者を診ている。	

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化は看護師に報告し指示を受けている。急病や転倒事故など急を要する時は昼夜問わず連絡をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医療機関に入院の場合は看護師から情報を得やすい。他医療機関の場合は相談員などと連絡を取り状況を把握している。治療については家族の同意を得ている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアが見込まれる時は医療スタッフと家族、介護職員でケアについて話し合い同意をもらっている。地域の関係者はいない。	・重度化や終末期に向けた事業所の指針を、入居時に本人と家族に説明している。重度化したときは、医師と家族、職員で今後の方針を決め、同意書を作成している。 ・職員は、年1回看取りの研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍では定期的な訓練は行っていない。令和5年度は厚木市消防の訓練を受講予定している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を7月に行い、1月にも予定している。全員の玄関まで避難と消火器の使い方などを行っている。地域との協力体制はない。	・夜間想定を含め年2回避難訓練を実施している。1階の全員と2階の階段昇降可能な利用者を1階玄関まで誘導し、通報や消火の訓練を行っている。 ・食料3日分と医療品、衛生用品、コンロなどを備蓄し、リストを作成して管理している。	

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	着替えや排泄の介助ではなるべく他者から見えないように気をつけて行っている。また丁寧な言葉を使うように心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者に人格を尊重した声掛けを心がけ、トイレや風呂のドアは必ず閉めるようにしている。 ・研修を年1回行い、マニュアルを読み合わせている。 ・利用者の呼称は苗字に「さん」付けが基本だが、希望にも応じている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からよく話し掛けコミュニケーションを取り気軽に話し掛けてもらえるような雰囲気づくりを心掛けている。物事を職員側で決めず尋ねるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	限られた時間の中でせかさないうように声掛けのトーンに気をつけて優しく話し掛けるようにしている。その日の過ごし方については希望を聞いていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りは自分で行い剃りのこしは電気シェーバーで手伝っている。整髪も出来るだけ自分で行って仕上げだけ手伝うようにしている。着衣は選べない方が多いので着たきりにならないよう工夫している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理、片付けが出来る入居者とは一緒に食事作りをしている。見た目よく盛り付けたり食べやすく盛り付けやすく食事が出来るよう工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・業者の食材とレシピを使ったり、配達の食材でメニューを考えている。ほぼ半分の利用者が日常的に食事作りを手伝っている。 ・好みを聞き取り、敬老の日には寿司を、肉が好きな利用者の誕生会にはビーフシチューを提供した。 	

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事が入居者が摂取できる量の配分、健康維持を守りながら好きなものを提供する。水分補給は回数を増やし十分摂取できることを心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをしている。全部自力でできる方、十分に出来ない方などに合わせて手伝っている。夜間は歯ブラシの消毒と義歯の洗浄剤を使用している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	水分摂取量、便秘の有無、個人の排泄ペースによって誘導時間を変えている。これにより出来るだけトイレで排泄できるよう働きかけている。また失禁状態が長時間にならないように気をつけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表で利用者一人ひとりのパターンを把握し、声かけや誘導により、トイレでの排泄を支援している。 ・夜間を含めおむつを使う利用者はいない。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を多めにしている。腸の働きを促す食品を提供している。便秘時には腹部マッサージをしている。それでも便秘の時は医療から便秘薬の処方がある。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1週間に2回は入浴できるように計画を立てている。体調や気分により予定通りに入れないときは午前を午後にした翌日に見送ることもある。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は週2回を基本とし、汚れたときにも対応している。 ・リフト浴が使用でき、全利用者が湯舟に浸かっている。利用者は職員との歌や会話を楽しんでいる。 ・レクリエーションとして、のれんや脱衣場の飾りを工夫している。 	

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動することによって程よい疲れを感じて質の良い眠りを取って頂けるようにレクリエーションなどに参加して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬を把握は出来ていないが症状が出た時にどんな薬を服用しているか副作用ではないか薬の説明書を確認している。異状が見られたときは看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、食事作りなどひとりひとりの方にできること、出来そうなことをお願いし出来なくても出来なくても「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出制限は継続中の為外出したり買い物をする事は出来ていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年神輿の見学に行っている。コロナ禍前は、花見やドライブ、買物などで外出していた。 ・利用者が事業所の周りを散歩したり、玄関先で外気浴や日光浴ができるよう支援している。ゴミ出しを手伝う利用者もいる。 	・新型コロナウイルス感染症の落ち着いた状況を見ながら、車での外出などレクリエーションの実施が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお小遣いを預かっている。それを使うときは本人にお金を渡し自分で払うことを援助している。出来ない入居者の場合は全介助している。		

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたり手紙を書く入居者はいない。友人から電話が来たり、家族と専用携帯電話で話す入居者にはその援助をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度を確認し寒い方が居れば上着の手伝いをする。装飾は過度にならないよう注意して落ち着いた空間にしている。転倒しないよう足元の環境整備にも注意している。	<ul style="list-style-type: none"> ・室温や湿度は数値で管理し、エアコンや加湿器で調整している。 ・職員と利用者が毎日一緒に掃除し、アルコール消毒も行っている。 ・リビングでは、利用者がテレビを見たり、囲碁をするなど、居心地よく過ごしている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の意思を尊重し席の移動は自由にしている。居室で過ごしたいときも自由にしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の物は使い慣れた家具、小物を持ってきてもらっている。茶碗や箸も今まで使っていたものを使用し環境の変化を少なくしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはエアコンやクローゼット、介護ベッドを備え付けている。 ・利用者は使い慣れた家具やテレビ、仏壇などを持ち込んでいる。 ・居室の整理整頓は、利用者に任せているが、難しい場合に職員が行っている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには表札、表示をし迷わないようにしている。動線には手すりの設置があり自立歩行を促している。		

事業所名	どんぐり庵さんだ
ユニット名	ぐら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は玄関と1F2Fのといれに掲示しており、いつでも振り返ることが出来るようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和2年3月から家族以外の面会は禁止している。自治会の行事も中止なため現在は回覧板にて地域の情報を得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の中で介護に関する勉強会を開催、その講師をどんぐり庵さんで引き受ける話があったが実現できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では書面の郵送のみで顔合わせはしていない。令和5年度から会議を再開している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	厚木市とは施設の調査があれば協力している。また事故発生時には報告の義務に沿って報告している。		

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に対するヒヤリハットを実施し意識づけに努めている。必要に応じて対応策も職員間で検討する様にしている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル研修を実施し日頃の支援を振り返ることで虐待防止への理解が深まり注意するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人を利用している入居者はいるが職員全員が制度について理解はしていない。また勉強会も行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居当日または事前に契約書、重要事項説明書など必要書類は読み上げながら内容を説明している。入居者本人が理解することが難しいので家族が納得されたうえで署名を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で中止していた訪問理容を家族の要望により再開している。		

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、業務中の申し送りなどで意見や要望などを把握する時間を持つようにしている。改善を要する事柄については対応するよう努力している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表や日頃の勤務態度を踏まえ環境を整えるよう努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに必要な研修があれば受講できるよう準備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の事業所と連携が図れるよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接を通し本人の趣味、嗜好、生活リズムを理解し要望に沿ったケアをしている。また、要望を言いやすい関係づくりに努めている。		

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に居室の家具等の設置は本人と家族の意見を取り入れ行っている。入居後のご様子は電話連絡やご様子お知らせシートにて伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に必要としている支援を入居者、家族と相談し必要に応じて福祉用具などの情報提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活での家事作業などを入居者と一緒に行うことで助け合って生活していることを理解できるよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご様子お知らせシートで日頃の様子は伝えている。精神面や体調に変化がある時は家族に報告し協力してもらえることを相談している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会や外出を制限しているため行っていない。		

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から家事作業も共同で行い、関わり合い出来るように努めている。また毎日行っている体操やイベントなども入居者同士が共有できるように楽しさを提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に家族と交流することはない。相談事など希望があれば対応する。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関わりの中で入居者からの小さな訴えも聞き逃さないように努めている。訴えることが困難な入居者は態度や行動から読み取ったり家族から情報をもらって検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや元の担当ケアマネージャーからの情報を参考にしてている。本人の発言も取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	趣味嗜好や食事摂取の状況、水分摂取量など体調により過ごし方を援助している。作業なども挑戦してもらいできることを探している。		

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者は記録と職員からの聞き取りを参考に計画をたてている。また実際に現場に入り直接入居者と関わりを持っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を記載している。計画作成者はそれを読み自分が関わっていないときの入居者を知る。介護計画の参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の為面会は制限があるが時間短縮や距離保持など工夫をして面会が出来るよう要望に応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で近所への買い物は行く事が出来ていない。自治会の行事は安全確保が出来る範囲でお神輿には参加している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調不良やけがの際には職員が付き添い協力医療機関を受診している。それ以外の医療機関は家族の付き添いの為情報提供や情報共有に努めている。		

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調の変化や排便コントロールについてなども看護師に報告相談し指示を仰いで対応している。介護職員では対応できない医療的処置は看護師が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医療機関に入院の場合は看護師から情報を得やすい。他医療機関の場合は相談員などと連絡を取り状況を把握している。治療については家族の同意を得ている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアが見込まれる時は医療スタッフと家族、介護職員でケアについて話し合い同意をもらっている。地域の関係者はいない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な応急手当の訓練は行っていない。正月のお餅詰まらせ窒息対応は毎年訓練している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。その際に水消火器使用で消火訓練を行っている。		

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る出来ないにかかわらず本人が手伝いたいことがあれば出来るように介助し行っている。読書が好きな入居者には居室で静かに楽しめるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューは各入居者の嗜好に応えられるよう希望を聞きかなえている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にTVを設置し好きな番組を観て過ごす、読書を楽しむなどひとりの時間を楽しんでいる。またフロアで他者と関わる過ごし方を好む方への希望に合わせて援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と一緒に洋服を選んでもらいながらモーニングケアを行っている。鏡の前で整髪し男性は髭剃りを行っている。髭剃りは電気シェーバーで自分で行い、剃りのこしは職員が手伝っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の準備は入居者と職員で行い包丁扱いや盛付などを行っている。年に1～2回の嗜好調査をおこない入居者の好みを取り入れている。また行事に合わせたメニューで季節を感じられるように努めている。		

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は日常記録として記載し確保できるように注意をしている。十分に取れない場合は本人の好みに合わせた別メニューを考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きは一人一人の能力により声掛けをしたり手伝っている。就寝前には毎日義歯洗浄を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時排泄にすることなく本人のペースにあわせて声掛けや介助をしている。本人のペースで排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段の食事に食物繊維を多く含む食材を利用しながら粉寒天や乳酸飲料などの摂取を工夫している。毎日30分程度の体操の時間を確保している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に合わせて午前の入浴予定を午後にすることもある。日にちの変更も行っている。リラックスしてもらえよう入浴剤の使用や温泉の日をもうけ楽しむことができるようにしている。		

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は個人に合わせている。リネンの清潔にこころがけ布団も天候の良い日は外に干すようにしている。日中ベランダからの外気浴を取り入れ活動量を確保し安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方があると薬表は個人ファイルに綴じ、すぐに確認できるようにしている。薬の変更があったときは服薬後の様子の変化等を記録に残し、職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	時期に合わせた行事を行い、装飾物は入居者を交えて作成し掲示するようにしている。誕生日には本人の好きなメニューを提供している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出制限は継続中の為外出したり買い物をする事は出来ない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお小遣いを預かっている。それを使うときは本人にお金を渡し自分で払うことを援助している。出来ない入居者の場合は全介助している。		

令和5年度	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全入居者ではないがご家族と電話のやり取りを行っている。手紙はご家族からは届いている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では適切な室温、湿度で過ごせるよう気をつけている。季節感が得られるような物を装飾している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での座席は本人の希望を取り入れ決めている。一人になりたいときは自室に戻り過ごしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた私物を設置する事で安心し心地よい居室になるよう家族と相談しながら整えている。本人の心身状態の変化に合わせ動線を考慮し過ごしやすきよう変更している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレなどはわかり易く表示しスムーズに生活できるようにしている。廊下には手すりを設置し安全に移動が出来るよう環境整備を行っている。		

令和 5 年度

事業所名 どんぐり庵さんだ

作成日 令和5 年10月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	21	新型コロナ感染予防の為外出が出来ていない。	外出をする。	新型コロナ、インフルエンザ流行がおさまったら買い物、ドライブ、地域の行事など外出を行う。	6カ月 感染症流行がおさまったら
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。